

# ALCE第89回例会

## 「おがの発大人の学校」 2年間の軌跡

プレ企画①

～国内外の「社会教育に」へのついて学びを深め合う～

# 本日の流れ

①主旨説明

②チェックイン

【第1部 ～1冊目『社会教育新論』～】

③導入（概要説明含む）

④ディスカッション

【第2部 ～2冊目『フォルケホイスコーレのすすめ』～】

⑤導入（概要説明含む）

⑥ディスカッション

⑦発表者からのまとめ

⑧チェックアウト

-----  
⑨延長戦（2冊を通じての全体討論）

# ALCE第89回例会 主旨説明

## プレ企画①

2 / 1 8 (土) **本日**

読書会

「国内外の社会教育への学びを深め合う」

## プレ企画②

3 / 1 8 (土)

読書会

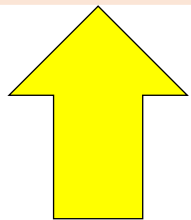
「『拡張する学校』について学びを深め合う」

## 本企画

3 / 1 8 (土)

報告会

「『おがの発大人の学校』2年間の軌跡」



# 運営委員の中で出てきた問い ？

## ● 「社会教育」って？

- ・ 誰のための、誰が、なんのために行う教育か？
- ・ さまざまな場所、形で行われている教育的な営みは、「社会教育」と言えるのか？（自然発生的な学び、等）
- ・ 器があってしかるべきか、ネットワークがあるべきか？
- ・ 「箱」のみならず、集まりを色々な場所で作ること？
- ・ トップダウンと、ボトムアップの営みがある？
- ・ 「学び」を目的とせずに、ネットワーク作りなどが目的となった時に、それを社会教育と言える？



# 運営委員の中で出てきた問い ？

## ●目的や理念は？

- ・ 専門家に任せずに、自分たちで学び合って、社会をよりよくしていくこと？
- ・ 自治の基盤を作る？態度を養う？
  - 教育的な実際活動は、それに資する
  - その先に、「まちづくり」がある？
- ・ 民主主義？市民性？
- ・ 図書館や公民館の装置や機能を共有できてる？形骸化？  
例) イギリス→絶対王政や貴族政からの転換期、シティズンを育成するためにできた

# 私の問い ?

- ①「日本の社会教育は、より多くの、多様な人の日常にとって必要となるためには、どんな仕組みが必要か？」
- ②「その時、どんな理念・哲学・精神性があったら良いか？」

# 私の問い ?

①「日本の社会教育は、より多くの、多様な人の日常にとって必要となるためには、どんな仕組みが必要か？」

➡「社会教育について、知ること」➡1冊目

②「その時、どんな理念・哲学・精神性があったら良いか？」

➡「デンマークのフォルケホイスクーレの例を参照に」➡2冊目

# チェックイン



今の気持ち、学びたいこと、  
本を読んだ方はその感想や問い

(3～4人グループで)

第1部 ～ 1冊目 『社会教育新論』 ～

導入～概要紹介～

「社会教育」って？

# 「社会教育」とは？

この社会に存在している多種多様な教育という営みの基本的な形態のことを言うのか・・・？（8章 p,149）



そうではない。「原初形態」ではなく、

近代化とともに普及・発展した学校教育との関係において  
規定されるものである。



# 「社会教育」とは？

- 近代社会以降、学校教育との対比で語られてきた。

競争を通して、パイの拡大と分配の増加をもたらしつつ、結果的に社会を分断する制度

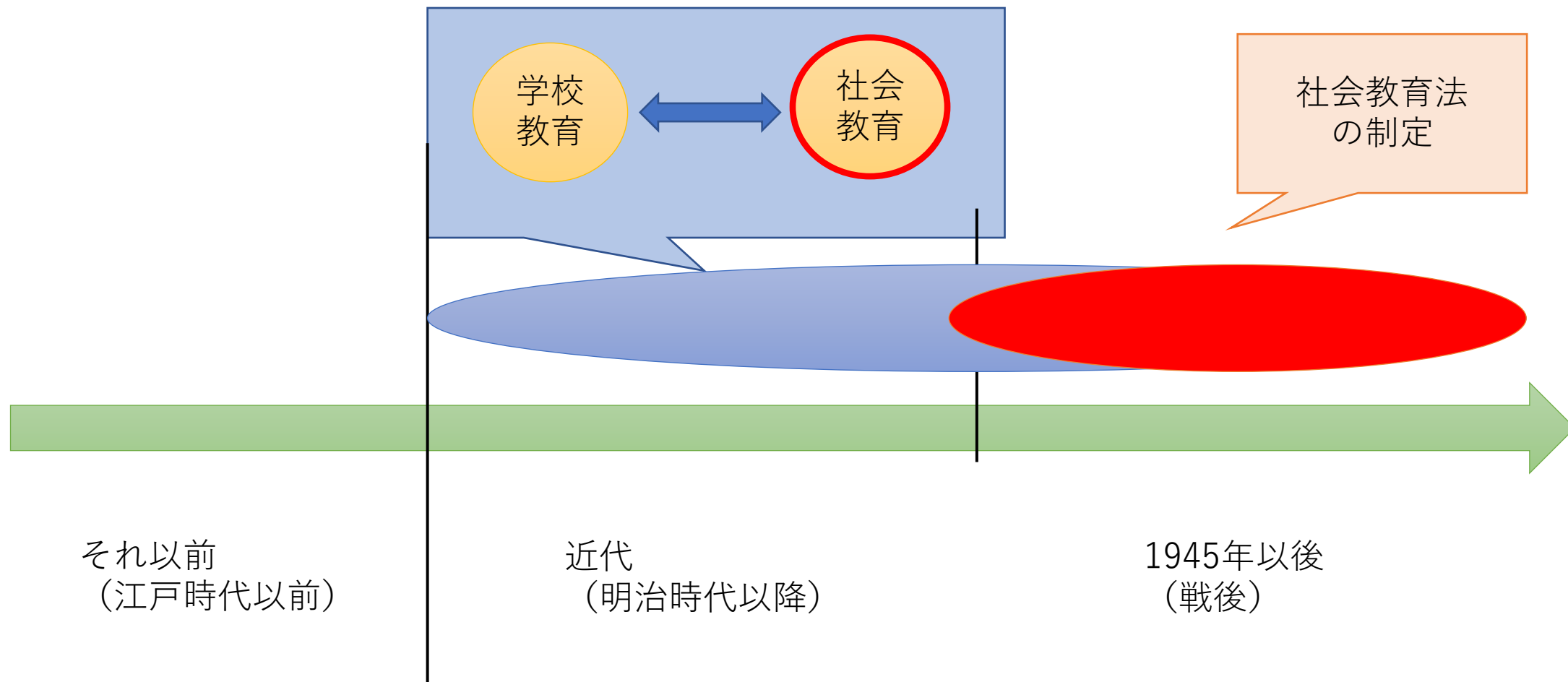
- ・ 民衆を国民へと育成することにより国家の求心力を求める制度。
- ・ 育成された国民は拡大再生産を基調とする工業化社会の労働力であり購買力、市場経済の駆動力となった。  
(序論 p10)
- ・ 社会が発展すればするほど、学校における選抜は激しくなり、人々の中の分断は深まる。

適応と統合を通して社会基盤を安定させ、かつ競争へと人々を送り返して、市場を拡大する安定装置

- ・ パイの永続的な拡大と分配の増加が求められる
- ・ 人々を回収して、競争へと送り返し、市場を拡大する装置が必要

学校教育の  
「補足」「拡張」「以外」  
(宮原,1977)

# 「社会教育」とは？



# 「社会教育」とは？

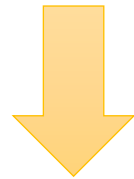
- **1949年、社会教育法の制定**（GHQによる方針を受けて作られた）  
**公民館、図書館、博物館を中心とした社会教育施設の体系が確立**

- 社会教育法（第2条）

「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育およびレクリエーションの活動を含む）」

# 「社会教育」とは？

- 当初、占領軍は図書館を中心とした成人教育計画を構想



範囲が限定される

- 文部省は、寺中作雄を中心に、**総合的な機能を期待された多目的施設である公民館を中心にした社会教育の展開を考えた。**
- 1946年 公民館の**全国的な設置を奨励**

# 各施設の現在とその理念

- 博物館

2018年の文科省設置法改正に伴い、所管が文化庁に移る

- 公民館

減少が著しい（H14年度18,819 → H30 14,281）

- 1970年代以降は、施設整備や専門分化の進展所轄行政の多様化などから、個別の施設にしぼった議論が強くなり、総合的な検討がなされることが少なくなってきた

公民館って？

社会教育において、  
なぜ、公民館が重要だったか？



# 公民館の理念

## (目的)

第二十条 公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もつて住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

## (公民館の設置者)

第二十一条 公民館は、市町村が設置する。

## (公民館の事業)

第二十二条 公民館は、第二十条の目的達成のために、おおむね、左の事業を行う。但し、この法律及び他の法令によつて禁じられたものは、この限りでない。

- 一 定期講座を開設すること。
- 二 討論会、講習会、講演会、実習会、展示会等を開催すること。
- 三 図書、記録、模型、資料等を備え、その利用を図ること。
- 四 体育、レクリエーション等に関する集会を開催すること。
- 五 各種の団体、機関等の連絡を図ること。
- 六 その施設を住民の集会その他の公共的利用に供すること。

## 文部省・寺中作雄の公民館構想

公民館は即ちわれわれの郷土を足場としてそのような公民的な性格をお互に陶冶修養する場所なのである。単なる学校でもなく、単なる集会所でもない。学校の施設を使って設置される場合もあるが、学校のごとく、教師と生徒との間に一方的な教育作用が行われる事が本体でなく、自ら修養し、平等の立場で相互教育が行われる事が本体となっている教養施設である。集会所の如く、常に町村民の各種の集会が持たれる施設ではあるが、漫然と集って会合をもつのが目的ではなく、日本の民主化の為に、正しい公民資格を養成する為に、真面目な楽しい会合を持つのが目的である。具体的には新しい教育方法と正しい教育目的をもった町村の文化施設であって、此処に常時にわれわれが打ち集って談論し、生活上産業上の指導を受け、お互の交友を深める場所であり、謂わば郷土における公民学校、図書館、博物館、公会堂、町村民集会所、産業指導所などの機能を兼ねた新しい教養機関である。それは亦青年団、婦人会など、町村に於ける文化団体の本部ともなり、各団体が相提携して町村振興の底力を生み出す場所でもある。

…（中略）…

第一に公民館は一の社会教育機関である。…（中略）…

第二に公民館は一の社交娯楽機関である。…（中略）…

第三に公民館は町村自治振興の機関である。…（中略）…

第四に公民館は産業振興の機関である。…（中略）…

第五に公民館は新しい時代に処すべき青年の養成に最も関心を持つ機関である。…（中略）…

…要するに公民館は社会教育、社交娯楽、自治振興、産業振興、青年養成の目的を総合して成立する郷土振興の中核機関である。

# 公民館の理念


- 「公民館は、単なる施設、単なる建物ではない。公民館は町村という自治体に一体と結びついて居り、**此の施設の背後には全町村民が控えて居る。**」
- 「公民館には町村民の魂、町村公民としての**自治精神**が宿り、郷土の振興、**民主主義の実践の理想に燃えて澆刺としてい**る。」
- 「公民館は、**施設と人と精神が結合して出来た機関**であって、**日本を民主化し、文化国家、平和国家として校正しようとする原動力となるものなのである**」（序論、p16）



# 公民館の理念と現在


- ・ 地域ごとの多様性が非常に高い施設である。  
その多様性が魅力でもあり、歴史的蓄積を振り返りながら現代の地域社会の活力にしていく実践が各地で重ねられている。

- ・ 「都市部」と「地方部」における差異



地方部

集落行事や祭礼の場所として用いられることも



都市部

講座やイベントを中心とした学習・教養施設としての意味合いが大きい

# 公民館の理念と現在

- 1970年代には、  
都市化の中で市民の学習・文化活動としての位置付けがなされる
- 「三多摩テーゼ」  
(東京都教育庁社会教育部「新しい公民館像をめざして」1974年)

## 【4つの機能】

- ①たまり場 ②地域活動の拠点 ③大学 ④文化創造の広場

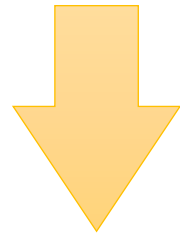
## 【運営の原則】

- ①自由と均等の原則 ②無料の原則 ③学習機関としての独自性  
④職員必置 ⑤地域配置 ⑥豊かな施設整備 ⑦住民参加

後に様々な議論を呼びながらも、都市部における公民館のあり方を規定するものとして影響力を持ち続けている

# 公民館の理念と現在

- 上記を目的に、  
教育行政が管理運営する教育・学習のための施設として位置づく



- その過程で、当初の理念や多目的性が薄れていったともいえる。  
(4章、p74)

# 公民館の理念と現在

設立当初より、議論を呼ぶことを危惧して政治的な問題を扱うことは避ける傾向にある。

例) 2019年、憲法9条を詠んだ俳句が公民館報に載せられなかったことを発端にした訴訟 (4章、p75)

# 公民館の理念と現在

- 「生涯学習」が喧伝され、地域の学習拠点としての役割を果たしてきた一方で、新自由主義の潮流や教育行政の再編の中で、**教育施設としての独自性をどう保つか**という問題が1980年代以降現代に至るまで続く。



- とくに2010年代以降は、**地域の自治の拠点として、再び終戦直後の寺中構想や、その後の自治公民館をめぐる議論への注目が高まっている**

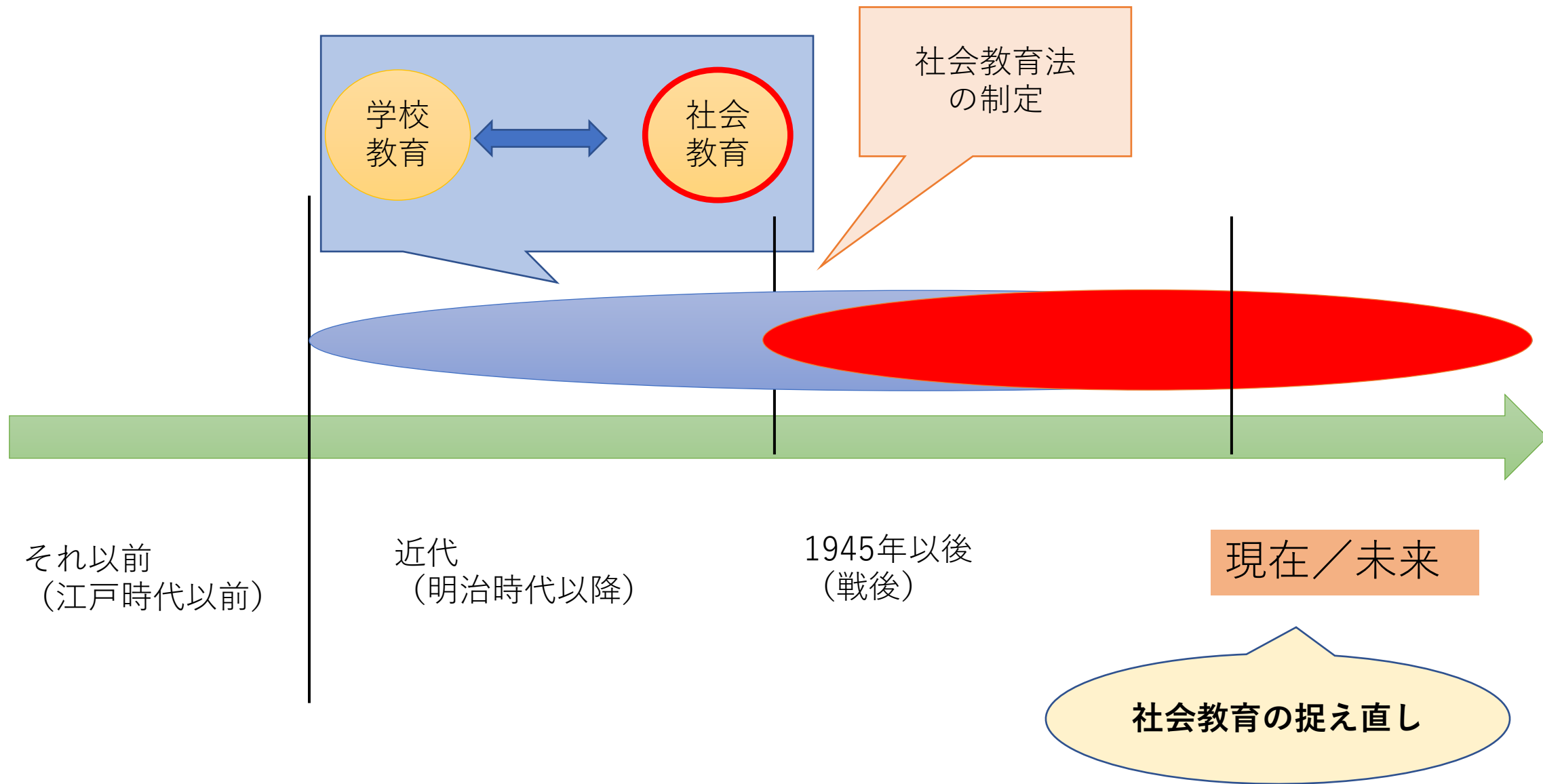


社会教育の捉え直し

# 「社会教育」の捉え直し

- 歴史的な産物としての、制度としての社会教育を、今日的に組み換えることも可能なはずである（序論 p12）
- ただし、歴史、あった過去、あり得た過去に学び、そこから未来を構想すること

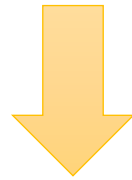
# 「社会教育」とは？



# 現在の状況

## 現在／未来

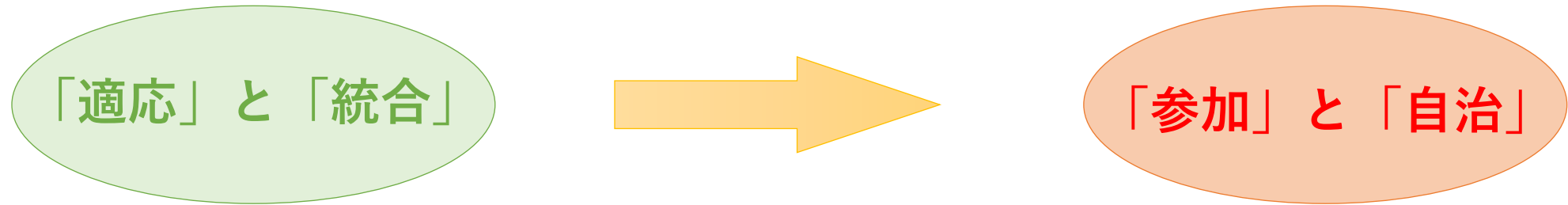
- ・ 脱工業社会
  - ・ 少子化高齢人口減少の中で、  
経済の拡大基調を維持することは困難に。
  - ・ 価値観の多様性の宣揚。
  - ・ 地域や家庭の困難により、分断から、個別化・砂粒化へ。
- ➔ 「帰属」を前提とする社会となっていない



従来の、社会教育における適応と統合を促す論理は働かなくなる

# 「社会教育」の捉え直し

- ・改めて、社会の統合が模索されるが、それはすでに上からの統合ではあり得ない。（砂粒化・流動化のため）（序論 p,13）



- ・草の根の具体的個人が住民として他者ととともに担うことで、人々の生活の現場において、
  - 「適応」と「統合」は「参加」と「自治」へ
  - 「分断」の弥縫は「想像と配慮」による孤立の解消へ
  - 「競争」は「創造と共存」へと組み換えられることが見通されるのではないか。

# 「社会教育」の捉え直し

- こうした草の根住民による実践こそは、戦後の公民館が構想していたものであった。そして、当時の文部省とGHQが社会教育法によって守ろうとした社会教育の「自由」とは、こういうものだったのではないか？（序論p14）
- 寺中・・・社会教育は、国民生活の基盤である家庭と社会において、人々を個人の尊厳と社会への責任を持った個人、つまり「社会に於ける自覚的個性の存在であり、社会我」である「公民」へと育成するための営みでなければならない。

# 「社会教育」の捉え直し

- こうした公民教育は、「個性の中に埋もれた政治的良識と社会的道義に眼覚めしめ、以て良き公民としての資格に光あらしめる為の教育である」
- 「社会の中に自己を見出すとともに、自己の中に社会を見出すことが近代の特徴であり、現代人の任務であっ」て、「これこそが「人の人たる所以」であることを、理解すること
- それを民主主義と平和主義として習性とするまで自ら訓練した公民個人が、「身についた教養と民主主義的な方法によって、郷土に産業を興し、郷土の政治を立て直し、郷土の生活を豊かに」する営みが、公民館における実践である。

# 「社会教育」の捉え直し

- つまり、従来の隣組や町内会のような帰属に囚われる住民ではなく、またそこから切断されて孤立する個人でもなく、  
**社会の中で他者ととともに、当事者として社会をつくり、それを担って生きる社会的存在としての個人が、他者とともに郷土をつくり、担うこと。その拠点が公民館である。**

➔ 「社会」・・・×地縁的な団体や組織として

○他者の存在を我が身に引き受けようとする**当事者**  
**としての個人が構成する「関係」**



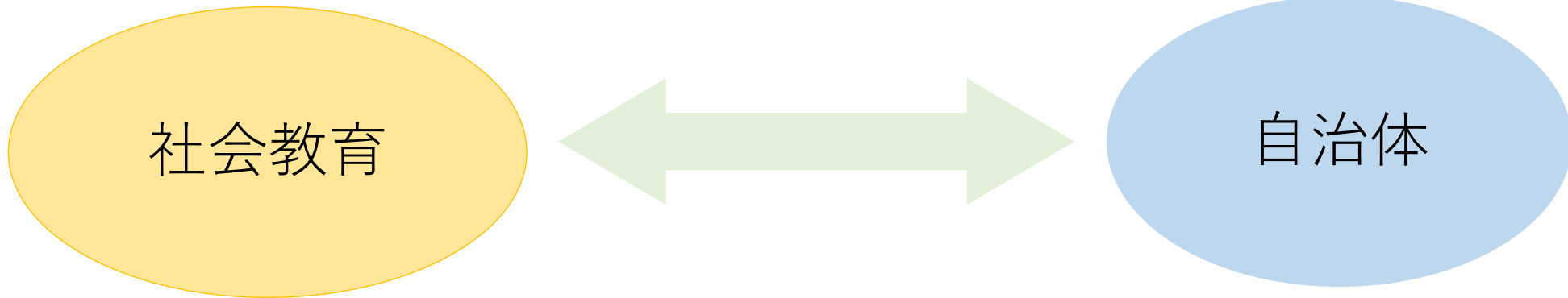
# 「社会教育」の捉え直し

- ・ GHQの成人教育担当のネルソンは、公民館構想を高く評価

「問題は・・・集権化の傾向を補正する、あるいは打ち破る新しい顔と顔を付き合わせる地域の人間関係を発見し、確立することである。  
そのような人間関係を通して、一般市民は、より広い地域の重要な諸問題に精通することができる」

「日本的、公民館における住民の姿こそが、日本文化にある集団主義の精神とつながる。公民館は、また、日本の文化様式に調和するかのよう  
に思われた」

# 「社会教育」の捉え直し



=住民や市民による民主的な社会の基盤づくり

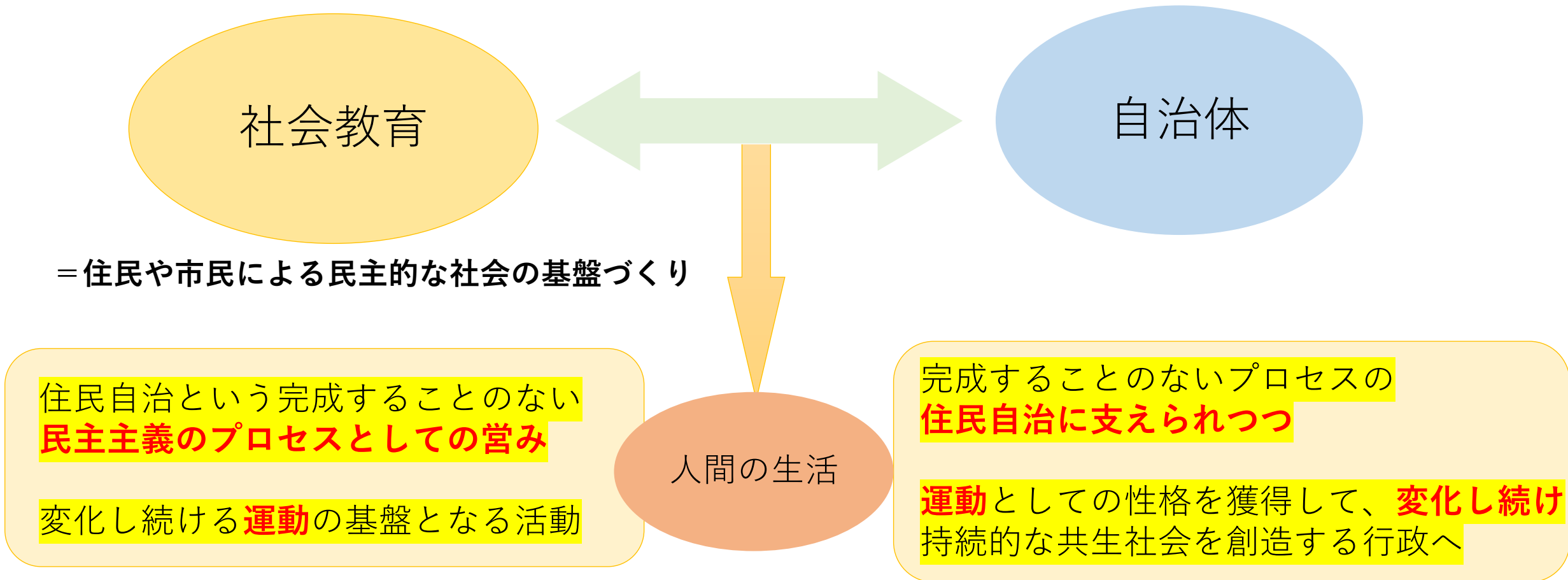
住民自治という完成することのない  
民主主義のプロセスとしての営み

変化し続ける運動の基盤となる活動

完成することのないプロセスの  
住民自治に支えられつつ

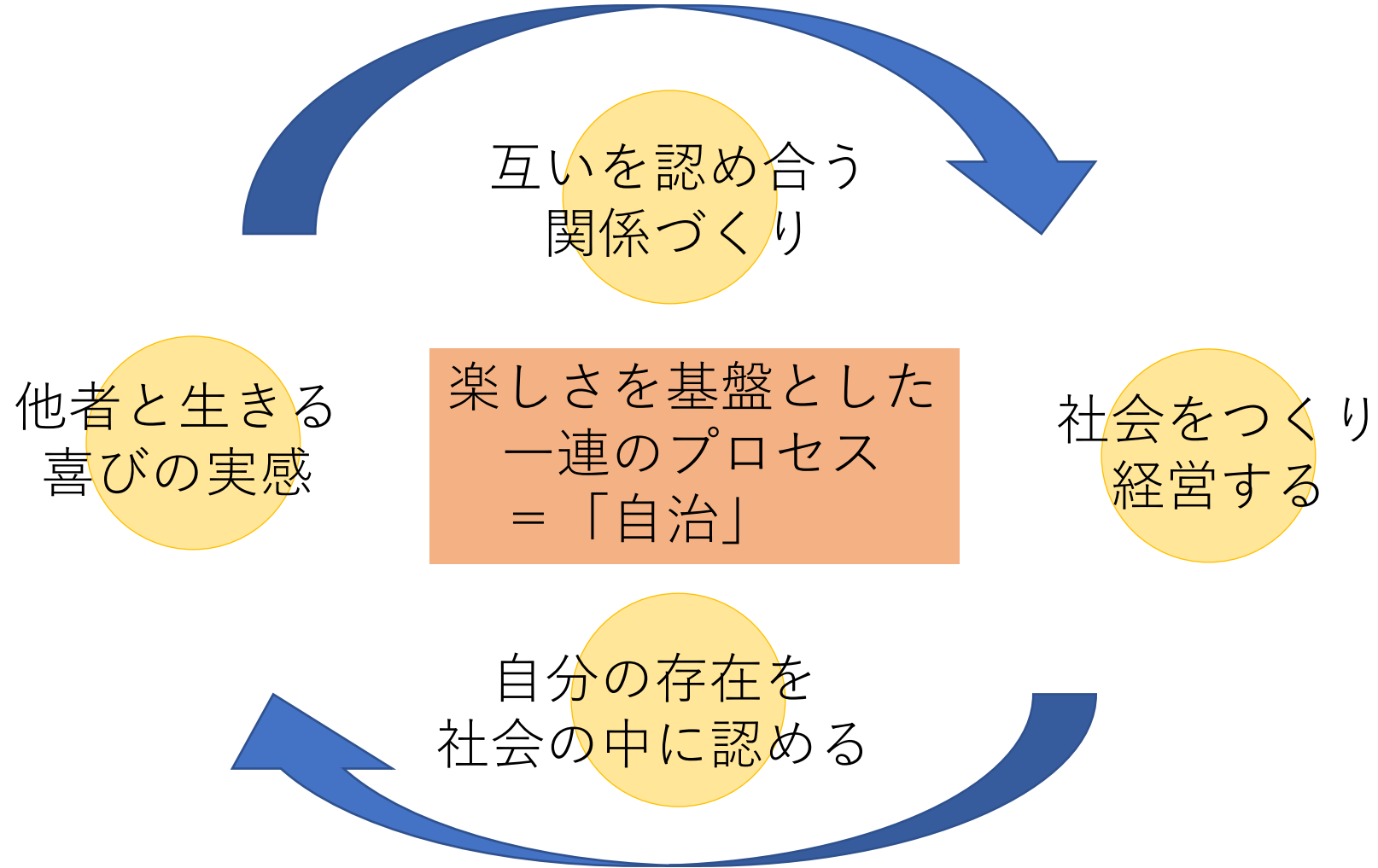
運動としての性格を獲得して、変化し続け  
持続的な共生社会を創造する行政へ

# 「社会教育」の捉え直し



自らの生活の目的を持って、  
それを実現する営みを繰り返し続けることができる

# 「学び」を社会に最定位する



# ディスカッション

- ①「日本の社会教育は、より多くの、多様な人の日常にとって必要となるためには、どんな仕組みや理念が必要か？」
- ②「日本の教育や社会教育（公民館など）への疑問や、感じたこと（ざっくばらんに）」

## 第2部

～2冊目 『フォルケホイスコーレのすすめ』～

フォルケホイスコーレって？

北欧・デンマークに70校ほど存在する  
成人のための教育機関

民衆のための高等学校





# フォルケ（民衆高等学校）と私の出逢い

- 教員として、日本の公立小学校における「学び」観や、社会とのつながり方に大きな疑問を抱いた。
- 北欧、中でもデンマークの社会と教育に関心をもった。社会としては、民主的で、包括的な社会であること。そして、その礎を担っているのが、教育と福祉なのではないか、ということ。
- 公立学校もそうかもしれないが、より象徴的なのが、「フォルケホイスコーレ」なのではないか、ということ。

# フォルケの歴史

(2章 p44)

- ・ **19世紀半ば**、絶対王政から立憲民主政への移行期に登場
- ・ 牧師、哲学者の**グランドヴィ**が理念を唱え、始まる。
- ・ ナポレオンの支配から解放されたヨーロッパでは、ナショナリズムの機運が高まる。**農民や民衆の政治参加が進む。**

# フォルケの歴史

(2章 p44)

・ 支配されていた**農民が国を担う力や知恵を手にしていくこと**や、ラテン語の優勢に対して、民衆の言葉を大切にしながら「デンマーク文化」の土壌を耕していくことが目的とされた。

・ グルントヴィ

公民館構想の  
理念に近い？

「民衆の声が自由になり強くなるまで民衆が社会的諸問題にかんして民主主義教育を受けなければならない」

「違いを違いとして認め、そのうえで互いに作用し合い、差異を取り込む形での共同体」が重要

# グルントヴィの教育思想

日本では江戸期

- ・当初は、高等教育システム全体を改革するような壮大なものだった
- ・1838年（グルントヴィ「生のための学校」）

「一般に、学校の機能として期待されるのは、聖職者養成、学者養成、そして市民要請の3つですが、**当時のデンマークには3つ目の学校が欠落していた。**

**入学資格を問わず、農民、聖職者、法律家、教師、行政官等の候補生たちが、同じ国民あるいは市民という資格において学べるような場が必要」**

- ・ 4点が重要視された

- ① **生きた言葉による教育**（伝承や口語・話し言葉や民衆語）
- ② **対話と相互作用**（異なる者との相互作用が市民を育成する）
- ③ **歴史的・詩的な側面**（人間は、誰もがその土地の具体性をもつ歴史的な存在）
- ④ **試験の廃止と生の啓蒙**

（資格や試験ではなく、自分の内から覚醒するような生の啓蒙が必要）

公民館構想の  
理念に近い？  
「全住民が控  
えている」



# フォルケの歴史

- ・「誰もが学べる高等教育の場を」という提言は、当時としては非常にラディカルなものであった
- ・当初のグルントヴィのフォルケの構想は、国王が死去し、後を継いだ国会議員の反対もあり、実現できなかった



- ・（一部理念を変えながら）次第に人々に受け入れられるように
- ・ 1844年  
世界で初めてのホイスコーレが誕生、最初の入学者は8人の農民
- ・ 1864年、ドイツとの戦争に敗北  
→このあとに、フォルケブームが到来する

# フォルケの歴史

- ・ 設立後、現在まで、180年の間での変化
- ・ 民主的な社会をつくる**ノンフォーマル**教育機関として
- ・ 時代の社会課題を取り入れながら、新しい教育の在り方にも積極的に取り組む。
- ・ 20世紀初頭は、職業教育が大きな関心ごととなり、実用的な科目が増える



- ・ 新しい科目が取り入れられるたびに、運営する人々の間で、**「生の学校」という理想を追求すべきか、時代の要請に応え実用的であるべきかが議論に。**

(例 手工芸 ⇔ 大工仕事)

- ・ 芸術や手工芸のほか、余暇、スポーツ、野外活動なども取り入れられるように

# フォルケの歴史

- ・ **20世紀後半以降、「ホイスコーレとは何か」が問われるように。**

→産業構造が変化し、公教育が整備される中、「誰もが学べる高等教育を」「地方の青年のための学校」という主張が、大きな意味を持たなくなかった



## ○新たな2つの方向性

- ・ 1970年代以降から定着し始めた、ワークショップの導入

→経験的な理解を促進する学習方法、現在でも多くの科目で重視

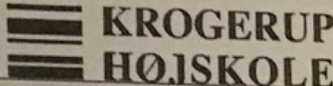
(例 自然発電の導入、有機野菜の栽培、バスの修理などエネルギーを消費しない生活実験が行われる等)

- ・ **グローバルな市民の育成**

→学生は、生まれ育った家庭や地域を離れ寄宿生活を送る中で、多様な社会的経済的背景を持つ人々、出身国や信仰の異なる人々と交流



# 現在のフォルケの時間割

 <b>KROGERUP HØISKOLE WEEKLY SCHEDULE SPRING 2020</b>						
MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY	SUNDAY
8.00 - 8.30 Breakfast	8.00 - 8.30 Breakfast	8.00 - 8.30 Breakfast	8.00 - 8.30 Breakfast	8.00 - 8.30 Breakfast	Weekend teacher: XX	Weekend teacher: XX
8.45-9.15 <b>Morning assembly</b> Teacher vignet	8.45-9.15 <b>Morning assembly</b> Regional Vignet	8.45-9.00 <b>Morning assembly</b>	8.45-9.15 <b>Morning assembly</b> Student vignet	8.45-10.00 <b>Common meeting or</b> <b>fellowship group</b> <b>meetings</b>		
9.15 -12.00 <b>Main subject</b>	9.15 -12.00 <b>Main subject</b>	9.00 -12.00 <b>A - subject</b>	9.15 - 10.00 <b>Lecture: Teacher</b>		10.00 -12.00 <b>Main subject</b>	10.00 -12.00 Brunch
			10.15 -12.00 <b>B - subject</b>	12.00 - 12.30 <b>Cleaning</b>		
12.00 - 12.30 <b>Cleaning</b>	12.00 - 12.30 <b>Cleaning</b>	12.00 - 12.30 <b>Cleaning</b>	12.00 - 12.30 <b>Cleaning</b>	12.00 - 12.30 <b>Cleaning</b>	12.15 Cleaning	12.15 Cleaning
12.30 Lunch	12.30 Lunch and Democracy group meeting	12.30 Lunch	12.30 Lunch	12.30 Lunch		
13.30-16.00 <b>Main subject</b>	14.00 Yoga	13.30 -16.00 <b>A - subject</b>	13.30 -16.00 <b>B - subject</b>	13.30-15.30 <b>Main subject</b> or <b>Fellow Friday</b>		
18.00 Dinner	18.00 Dinner	18.00 Dinner	18.00 Dinner	18.00 Dinner	18.00 Dinner	18.00 Dinner
19.30 Art corner w. Lisbeth -- Green corner w. Ida and Sarah	20.00 <b>Krogerup Café</b>	19.30 Choir w. Mette	19.30 Creative Thursday w. Marie -- Band w. André		(Theme party by FG XX)	20.00 Fire place hygge

# フォルケの歴史

・「ホイスコーレ」は、人間存在に根ざし、誰もが価値のある人間であり、人間同士が対話を通してその存在を認め合う場として、存続してきた。経験的な理解と多様性に根ざした学習の場。

(ダイバーシティ&フルインクルーシブ)



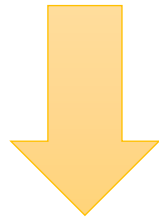
・21世紀のグローバル社会においても、人間に必要な教育は何かを問いかける存在となっている。

# フォルケと日本との繋がり (4章p110)

- 1911年 内村鑑三「デンマルクの話」
- 1913年 『国民高等学校と農民文明』
- ➔ 日本における、フォルケホイスコーレの設立運動へ
- 1915年 山形県立自治講習所
- ➔ **農村の近代化や地域の振興を担う中堅指導者階級を育てる**
  - ➔ 17年間で、2,932名の終了生
  - ➔ この間、全国でも、同種の学校の設立
- 当初の知識教育を重視する考え方が、勤労主義、精神主義への変貌し、新たな農地を旧満州などに求める植民の方向に傾斜
- ➔ 戦争への協力ともみなされ、WW2以後、ほぼ消滅へ。

# フォルケと日本との繋がり (4章p110)

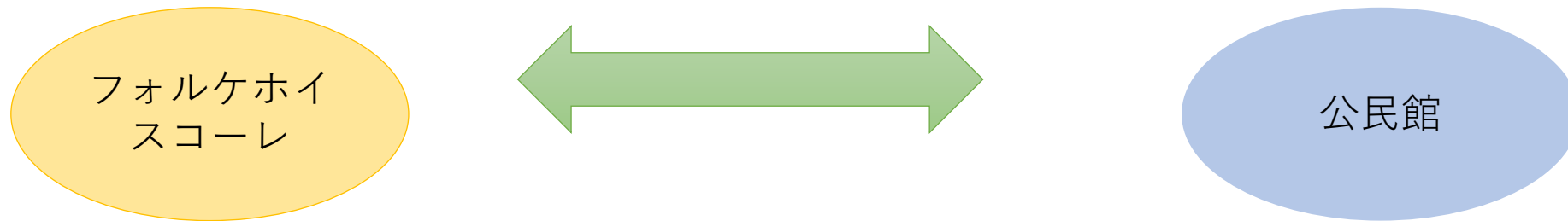
- 1946年 寺中作雄『公民館の建設』
- ➡ 敗戦後の復興に寄与した外国の教育機関の例として、フォルケホイスクーレが登場。
- ➡ **敗戦後の地域の復興・青年の育成・地域における民主主義の普及の点で、共通していた**



• 一面において類似した社会環境にあったフォルケから教育理念と教育方法を学ぼうとしたが、時代が変わりゆく中で「日本らしく」変容した

# フォルケと日本との繋がり (4章p110)

- ・ 今日、再び、フォルケへの関心が高まる  
→ フォルケの本質を学び、守り、備えるべきことは何かを考え、見極めていく必要がある



180年経った今でも、「民主主義」を重要な価値として高く掲げている

75年以上経った今、公民館で「民主主義」の普及啓発をしている館はほとんどなく、青年の関わりは極めて少ない

フォルケの学びって？

# フォルケにとっての「学び」観

## ①「あなた自身になる」 (コラム p38)

- ・ 学びが、日常的な共同生活と結びついている。

- ・ **1) エディフィケーションと 2) エンライトメント**

### **1) エディフィケーション**

- ・ **倫理観や考える力など、心の成長に関わる教育。** 毎朝の集会や会話に溢れる食事の場面など、授業の科目だけでは達成できない教育的な価値が、他者と過ごす何気ない**日常生活全体に溢れている。**

- ・ **「自由」**との深い繋がりがある。

- ・ 「自由を備えた教授法」・・・**すべての個人が、人類や社会、世界について自分の意見をもつことができるという根源的な自由を発見する意欲を掻き立てる現代的な教授法。** 日常生活のなかでこの意欲を繰り返し掻き立てること。



# フォルケにとっての「学び」観

## 2) エンライトメント

- ・日常生活が集団で行われることが重要。
  - ・予め決められた社会や世界のイデオロギーに自分をフィットさせるのではなく、自分の意見を持つことができたとき、同じく自分の意見を持つことができる他者と共同で人生の意味や社会の在り方について考え、創造していくことが求められる。
  - ・こうした環境下で培われるのが、エンライトメント。  
=自分という存在を世界とのつながりにおいて認識できること。
  - ・人の生（human life）を共同の責任ある生とみなし、様々な現象や問題、そのコンテクストにどのようにアプローチするかを発見
- ⇒市民の構成員としての責任ある生活におけるエンライトメントをいかにして学生に届けられるか、教育方法や社会共同性を常に模索することが大事。



# フォルケにとっての「学び」観

1) エディフィケーション と 2) エンライトメントを通して、

すべての学生が、自己決定できる責任ある存在として自分自身になることや、

常に人や人間性を重んじる存在として自分自身を位置づけることを促す

# フォルケにとっての「学び」観

## ② 「生のための学び」 (コラム p68)

公民館構想の  
理念に近い？

- ・ 「無目的の重要性」 (成績や試験はない。)

→ **エディフィケーション (心や倫理の教育) には欠かせない**

- ・ 性善説

「人類は神によってつくられたということであり、・・・神の創造の中で造られた人類は、生まれながらにして倫理的なポテンシャルを持っている」

- ・ 光とぬくもり (知識と感情) に満ちた場所で「**己を知ること**」
- ・ 「**会話の中にある生きた言葉だけが己を知る方法であり、個人の倫理的なポテンシャルを行動に結びつけることができる方法**」
- ・ **それは、強制のない、自由な場所でのみ、達成ができる**

cf) 「喜びのための学び」

# フォルケにとっての「学び」観

## ③「共に学ぶ」（コラム p146）

- ・ 共同生活を通して、**アイデンティティが社会的に発達**する。
  - ・ **「他者への共感力の強化」である民主主義教育にとって、極めて重要。**
  - ・ 昨今の社会において、多くの若者はプレッシャーを感じており、アイデンティティを形成する過程での教育を求めている。
- 他者を通して自分を見つめることで、民主的なアイデンティティを形成していく学びに価値を置いている。**

# フォルケにとっての「学び」観

## ④「責任をとる」 (コラム p66)

- ・「民主的市民性」を育てる場 = 自由と共通善のバランス
- ・社会のニーズや価値が、個人のモチベーションや能力と重なることで生まれる、内面的な必要性 = 使命
- ・「民主的エディフィケーション」 「若者のリーダーシップ」 育成

# フォルケにとっての「学び」観

## ⑤「民衆になる」(コラム p182)

(設立時から)

- ・「実践的な**生活**」と「民主的な**生活**」とを結びつけた  
→階級社会から、ヒューマニズムに基づいた社会へ、民衆の集団へと変化
- ・設立時、言語、歴史、神話、物語があらゆる人にとって共通善を理解する方法と考えた  
→国の歴史を理解し政治的な対話に参加することが、統治形態としての民主主義に必要とされる要素
- ・ホイスコーレは、デンマークの民主化に際し、多大なる影響を及ぼした

# フォルケの留学体験

**感動したシーン4つ**

## ①毎朝の合唱

➡感性・感情を磨く、エディフィケーション







Bob Dylan 1963

D Bm G D  
 Come gath-er 'round peop-le wher - ev-er you roam  
 Dmi<sup>9</sup> Em G  
 — And ad-mit that the wa-ters a-round you have  
 A G/a D Bm G A<sup>11</sup>  
 grown. And ac-cept it that soon you'll be drenched to the  
 D D/f# Em Am<sup>2</sup> A  
 bone, — If your time to you is worth sav-in', — Then you  
 A /g /f# /e  
 bet-ter start swim-min' or you'll sink like a stone. For the  
 D Bm<sup>7</sup> Em<sup>7</sup> A D<sup>7</sup>  
 times they are a'-chang - in'!

1 Come gather 'round people wherever you roam.  
 And admit that the waters around you have grown.  
 And accept it that soon you'll be drenched to the bone,  
 If your time to you is worth savin',  
 Then you better start swimmin' or you'll sink like a stone.  
 For the times they are a'changin'!

2 Come writers and critics who prophesize with your pen.  
 And keep your eyes wide, the chance won't come again.  
 And don't speak just to be still in spin.

3 For the loser now will be later to win —  
 For the times they are a'changin'.  
 Come mothers and fathers, throughout the land.  
 And don't criticize what you can't understand.  
 Your sons and daughters are beyond your command.  
 Your old road is rapidly agin'.  
 Please get out of the new one if you can't lend your hand.  
 For the times they are a'changin'.

4 Come senators, congressmen, please heed the call.  
 Don't stand in the doorway, don't block up the hall.  
 For he that gets hurt will be he who has stalled.  
 There's a battle outside and it's ragin'.  
 It'll soon shake your window and rattle your walls.  
 For the times they are a-changin'.

5 The line is drawn, the curse is cast.  
 The slow one now will later be fast.  
 As the present now will later be past,  
 The order is rapidly fadin'.  
 And the first one now, will later be last.  
 For the times they are a-changin'.

Bob Dylan 1963. "The Times Are A-Changin'".  
 Copyright © 1963, 1964 Warner Bros. Inc. Copyright renewed 1991, 1992 Special Rider  
 Music. International Copyright Secured. All Rights Reserved. Trykt med tilladelse af Music  
 Sales Corporation.

## ②共生生活・3食の食事

➡共同体として居心地の良い感覚や繋がりを磨く











### ③ 民主的な対話の場

(全員参加の生徒会、議員とのディスカッション)

➡ 民主的なトレーニング、市民としての参加













## ④実践の場へつなげる

➔ 民主的なトレーニング、市民としての参加



# フォルクヘが社会にもたらす影響

- 民主主義 (p49)
- 地域づくり
- 図書館
- 青年の進路選択
- 福祉的要素

# 日本とのお社会の差異？

- 3章 (p72)
- 「行動するデモクラシー」
- 「民主主義をメンテナンスする」

# ディスカッション

- ①「日本の社会教育は、より多くの、多様な人の日常にとって必要となるためには、どんな仕組みや理念が必要か？」
- ②「デンマークのフォルケホイスコーレへの疑問や、感じたこと（ざっくばらんに）」

# 暫定の解 ！

①「日本の社会教育は、より多くの、多様な人の日常にとって必要となるためには、どんな仕組みが必要か？」

# 暫定の解！

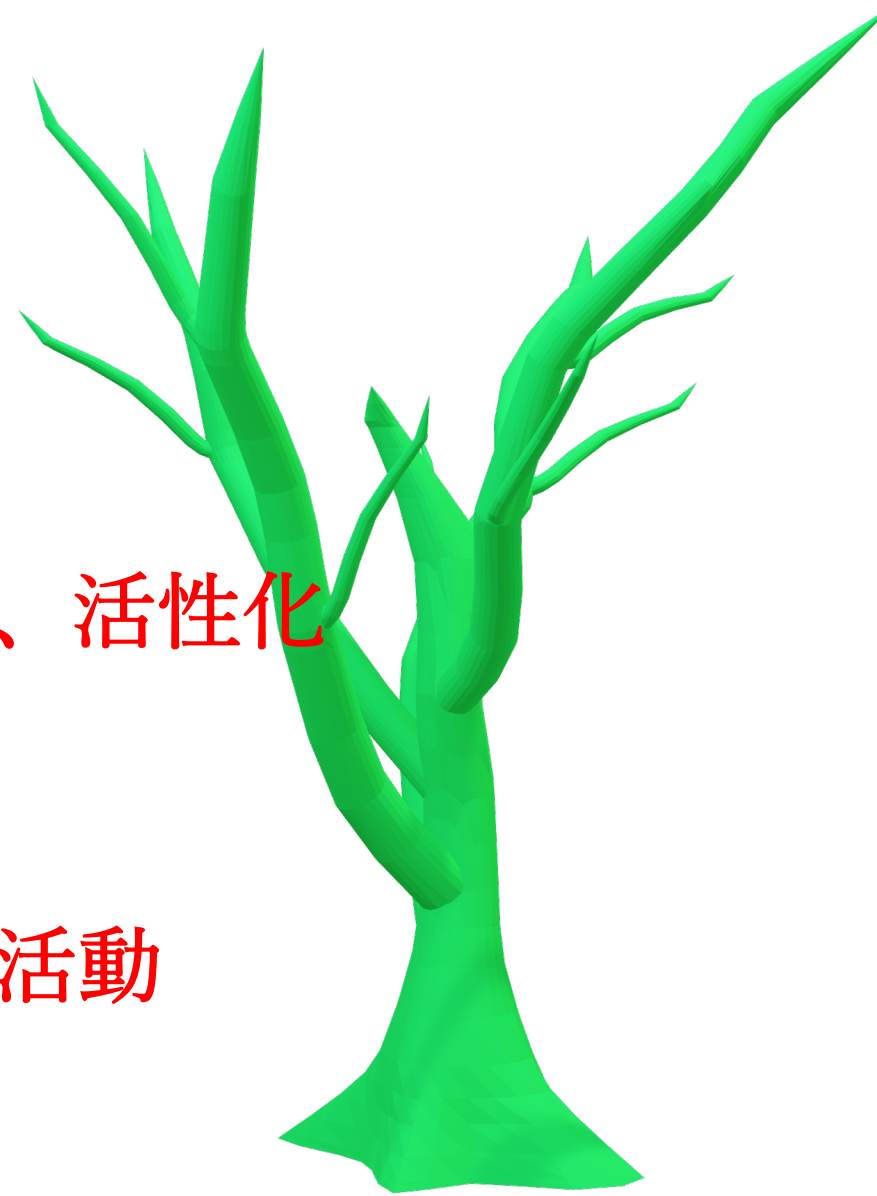
## ツリーモデル

### ①幹・・・

「公民館」的な場所（理念を踏まえて）の、活性化

### ②枝・葉・実・・・

多種多様な活動、自治的な取組、市場的な活動





# 暫定の解 !

## (1) 形、デザイン

### ①幹

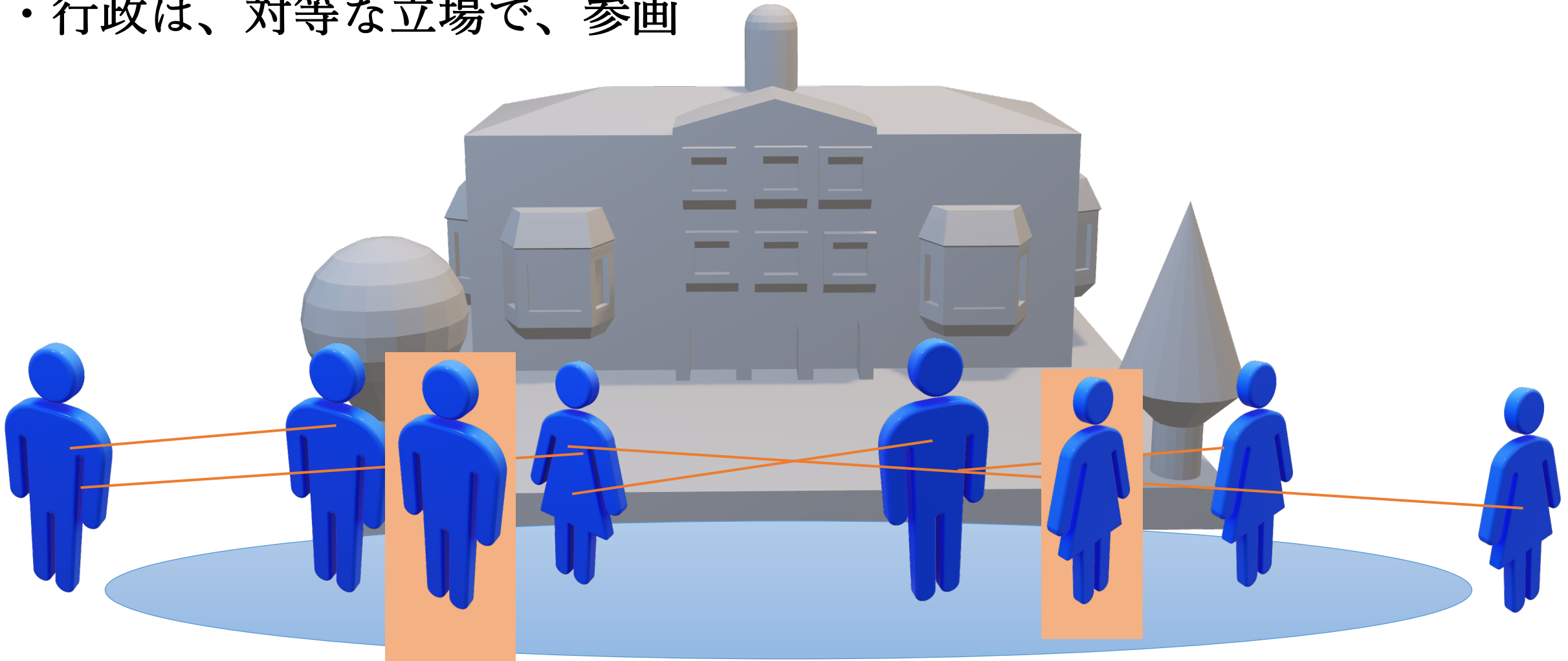
・・・年齢や立場の横断、つながり、学び合い、地域づくりや民主主義の拠点

### ②枝・葉・実

・・・趣味の活動、生活に密着した社会的な営み

## (2) 運営の姿

- ・ 住民や参加者、関係人口による、**ボトムアップでの運営**
- ・ 行政は、対等な立場で、参画



暫定の解 !

②「どんな理念・哲学・精神性があったら良いか？」

# 暫定の解 **！**

② 「どんな理念・哲学・精神性があったら良いか？」

A) 目指すもの：民主主義・市民性・協働性（共同性？）の涵養

B) 精神性：「共通善」の育み／民衆的な共生文化の育み  
（デンマークモデルを参照に）

C) 発展のイメージ：

地域ごとのボトムアップによる内発的発展と、ネットワーク形成

## ✓ チェックアウト

本日学んだこと、問い、明日へ生かせそうなこと

(チェックイン時と同じ3～4人グループで)